令和6年度第1回成田市行政改革推進委員会会議結果概要

1　開催日時

令和6年10月18日（金）　13時30分から16時00分まで

2　開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所6階　中会議室

3　出席者

（委員）

久野直衛会長、宗藤睦夫副会長、芦澤博委員、岩澤信一委員、髙塚典子委員、田中みを委員、西村好恵委員（WEB参加）、諸岡靖彦委員

（成田市）

野村総務部長

事務局（行政管理課）秋野課長、押尾係長、長野主査

4　配布資料

・会議次第

・席次

・成田市行政改革推進委員会委員名簿

・資料1-1　行政改革推進計画（令和4年度～令和6年度）の進捗状況の概要

・資料1-2　行政改革推進計画（令和4年度～令和6年度）の進捗状況

・資料1-3　行政改革推進計画（令和4年度～令和6年度）の財政的な効果額

・資料2-1　次期計画策定スケジュール

・資料2-2　第5次行政改革大綱新旧対照表

・資料2-3　行政改革推進計画（令和7年度～令和9年度）素案

・資料2-4　新旧行政改革推進計画における推進項目ごとの取組項目数

・資料3-1　成田市ペーパーレス宣言

・資料3-2　印刷枚数及び前年度との比較（4月～9月）

5　議題

（１）成田市行政改革推進計画（令和4年度～令和6年度）の進捗状況について

（２）次期成田市行政改革推進計画の策定スケジュール及び素案について

（３）成田市ペーパーレス宣言について

6　議事（要旨）

事務局から、議題（１）成田市行政改革推進計画（令和4年度～令和6年度）の進捗状況について、議題（２）次期成田市行政改革推進計画の策定スケジュール及び素案について、議題（３）成田市ペーパーレス宣言について、配布資料に基

づき説明があった。

７　質疑等

≪議題（１）≫

（Ⅱ－①－５「AI・RPAの導入」について）

・R5年度の取組内容等に「AI議事録作成用文字起こしツールを導入するとともに・・・」とあるが、導入後の状況を伺いたい。文字起こしツールを導入したことで、逆に職員の負担増(非効率)になっていないか(AIが作成した議事録の修正に手間がかかるという意味で)、伺いたい。【西村委員】

⇒職員への利用後のアンケートを実施したところ、昨年度約５００時間の利用実績があり、業務削減割合の平均値が約５割であったことから、議事録作成にかかる時間が半分程度削減されたと考える。また、負担が増えたという職員はいなかった。行政管理課から効率的な使い方を情報提供することで、効果的に使用できていると考えている。

（Ⅱ－①－１８「選挙事務の効率化」について）

・今後の取組予定欄に「経費を削減できる余地がないか、・・・」とあるが、数値実績欄に人件費の削減額(率)は出せないのか。また、成田市は選挙事務に関わる職員の給与は手当制なのか、それとも時間外扱いなのか。【西村委員】

⇒選挙事務に係る職員の給与は時間外勤務の扱いとなっている。人件費の削減額については前回の同種の選挙との比較として出せるのではないかと思うので検討していきたい。

（Ⅰ－②－９「いずみ聖地公園墓地管理料の納付方法の拡大」について）

・最近は墓じまいが進んでいる時代なので、入るお墓がなくなってしまうような人が出てくると思うが、成田市内には誰でも入れるような墓地はあるのか。

【髙塚委員】

⇒いずみ聖地公園内に合葬式墓地を整備しているところであり、令和7年度には整備が完了する予定である。

（Ⅰ－③－５「インターネットを活用した主権者教育の推進」について）

・数値目標は達成しているが、啓発の回数が減っている理由は。【芦澤委員】

⇒その年度によって選挙の数が違うこともあり、回数の違いが出ている。

・取り組みが進まないケースは様々だが、次期計画に活かしていくために、実現できなかったケースごとに分類して判断する必要があるのではないか。

【宗藤副会長】
⇒取り組みがうまくいかなかった要因を分析することは重要であると考えているため、今後検討していきたい。

（Ⅰ－①－２「国際医療福祉大学と地域との連携推進」について）
・地区の敬老会で大学の先生が講演会を行った。すごい反響があったので、これからも大学の知恵を市民に広げていただきたい。【宗藤副会長】
⇒今後も大学との連携を進めていきたい。

（Ⅱ－②－１１「ふるさと納税の推進」について）
・目標達成となっているが、返礼品の購入や寄付金控除などもあるので、ふるさと納税事業全体の詳細な説明を求める。【宗藤副会長】
⇒令和５年度のふるさと納税額から返礼品経費と市民の寄付金控除額（流出額）を差し引くと、約１億1,500万円の赤字となっている。

（Ⅱ－③－８「新生成田市場への指定管理者制度の導入」について、Ⅱ－③－９「土地区画整理事業による公共施設の適正な配置」について）
・それぞれ実績と進捗評価が見合っていないのではないか。【宗藤副会長】
⇒あくまで数値目標に対する取組実績で進捗評価を行っているが、評価が適切かどうかは再度検討していきたい。

・目標に対して8割順調に進捗しているというのはすごいこと。以前、埼玉県にある民間の清掃工場を視察してとても参考になったので情報提供したい。そこでは、持ち込まれたごみを最終的に資源化するような取り組みをしていたので、マイナスをプラスに変えるような発想を取り入れていくといいのではないかと感じた。
【諸岡委員】

・職員の働き方改革に繋がる取り組みの成果は出ているのか。時間外勤務の縮減、休日勤務の縮減、労働意欲の増加につながっているのか。DXの考え方が世に出てきていて、業務の効率化のためコンピューターに任せられる部分はコンピューターにやらせて、職員はワークライフバランスに配慮しながら働くことが大事。国も県も採用に苦労している。職員が健康で楽しく働ける職場を目指してもらいたい。【諸岡委員】
⇒DXの取組みによりコンピューターに任せられるものはコンピューターに任せるという考えで取り組んでいるが、浸透させていくのはこれからである。次期計画に

おいて働き方改革を重点項目の一つとして取り組んでいきたい。

（Ⅰ－①－５「自主防災組織の育成と結成促進」について）

・実際の災害発生時には、自主防災組織がどこまで対応できるかわからない。横のつながりというのをどこまで考えているのか。区長会や社会福祉協議会など、様々な団体と連携して進めていくことが重要だと感じた。【岩澤委員】

（Ⅱ－④－２「給与の適正化」について）

・指定管理者制度や業務委託の費用と、職員給与とのバランスについてどう考えているのか。また、業務を民間に委託することにより低賃金で働く人が増えることになってしまうのではないか。【岩澤委員】

⇒料金的な部分もあるが、指定管理や外部委託は民間のノウハウの活用などが狙いである。民間事業者は最低賃金を守る義務があるし、社会情勢の変化などに伴い賃金が大幅に上昇するような場合は、市と指定管理者とで協議を行い、契約期間の途中であったとしても賃金アップを行うこととしている。

・システムを導入するという項目がたくさん入っているが、システムを導入することのデメリットもあると思う。行政の仕事は人とかかわる仕事がたくさんあるので、システムばかりに依存することに不安を感じる。
医療、保育園、障がい者などの対応は人の目が絶対に必要な業務である。システムの導入した先まで見通したうえで必要性の判断をしてほしい。【田中委員】

・行政改革については、市役所職員だけが考えるものではない。共助の部分など、市民が考えなければならないこともある。行政改革における共助に関する評価をしっかり行った方がいい。【田中委員】

・成田市の行政改革は事務や経費の削減は非常に上手にできている。しかし、協働が関わる項目は進んでいない。行政改革の取組項目の中で、進捗が鈍い事業は市民が関わる事業である。職員の研修が学びだけで終わってしまっているので、人と人を繋げることができる職員を育成することが重要になってくる。【久野会長】

<u>≪議題（２）≫</u>

・素案を見ていて、市としてどのようなことに重きを置いて取り組んでいこうと考えているのか分かりづらい。空港の機能強化や赤坂複合施設、JR成田駅西口の再開発などの成田市の将来が見えるような事業が入っていないが入れた方がいいの

ではないか。【宗藤副会長】
⇒確かに空港関連や赤坂複合施設、西口の再開発などは市の方向性を決める大きな事業ではあるが、行政改革推進計画の取組項目として取り上げる内容については、事業ベースより細かい内容であっても、事務の効率化や市民サービスの向上に直結するような取組みを優先的に計上している。

・次の3年は空港の機能強化などもあり激動の3年となる。もうちょっとアクセルを踏んでもいいのではないかという気持ちもある。【諸岡委員】

・市場も移転して力を入れてやっていくのだから、農業についてももう少し力を入れてもいい。成田は農業市なんだから世界2位の農業大国であるオランダを視察してみたらおもしろいと思う。【久野会長】

・議会資料のペーパーレス化はどんどん進めていってほしい。資料を印刷したいという議員さんはもらったデータを自分で印刷すればいいと思う。【西村委員】

（Ⅱ－①－６「事務局事務の見直し」について）
・事務局事務の見直しについて、協力団体を見放すような取り組みにならないか心配。各種団体と市との繋がりがなくなってしまうことが市にとってのデメリットになってしまうこともあるのではないか。また、繋がりがなくなることで市の要請も通りづらくなったり、ボランティアなども集まりづらくなってしまったりするのではないか。【髙塚委員】
⇒事務局事務のすべてを急に手放すわけではなく、各事務局と相談、調整を行いながら、本来あるべき姿に近づけていくもの。今は、団体が管理するべき会計業務を市の職員が行っている事務局を中心に、まずは会計業務を移管することから検討している。

・パブコメの募集の仕方を工夫して、幅広い市民等に見てもらえるような取り組みを検討して欲しい。【田中委員】

・民間は収入を第一に考えるが、行政は支出を先に考えているところだと思っている。経費の節減した部分を有効にどう活用するのかというところまで踏み込んでいいのではないか。サービスの向上という部分も行政改革に繋がるので、使うところも積極的に計上していっていいと思う。【岩澤委員】

（Ⅰ－②－２０「持続可能な地域公共交通の構築」について）

・地域公共交通の構築とはコミュニティバスやオンデマンド交通の見直しだけなのか、それともその他の公共交通の選択肢も含めた全体的な取り組みなのか。

【芦澤委員】

⇒今年の4月から都市計画課の中に新たに交通政策室を設置して取り組みを進めている。コミュニティバスやオンデマンド交通だけに限らず、成田市全体の公共交通について検討を進めていく。

・事務事業の見直しの項目については、ほとんどが職員の効率化に特化したものとなっている。市民に直結するような事務事業の見直しがあれば、また文言等の検討もしてほしい。【宗藤副会長】

⇒「事務事業の見直し」の取組項目については、内部事務の効率化や職員の負担軽減の色合いが強い。市民の利便性の向上などに直結する取組項目については、「市民サービスの向上」の項目に分類されている。

・Ⅱ－②－１４（新たな企業の進出及び既存企業の再投資などの環境整備）については、新たな企業の進出に繋がるような事業なので積極的に取り組んでほしい。また、Ⅱ－③－２（PPP/PFI手法による公共施設の整備等の推進）については、PPPやPFIの取組みも、西口の再開発や赤坂複合施設などの大規模事業において積極的に活用していってほしい。【宗藤副会長】

<u>≪議題（３）≫</u>

・質疑等なし

８　傍聴

傍聴者　０名

視聴者　０名